

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度(評価)
 A: 十分達成できている
 B: おおむね達成できている
 C: やや不十分である
 D: 不十分である

学校名 佐賀市立三瀬中学校

1 前年度 評価結果の概要
 ・コロナが終息の気配があったが、これまで対応として削減や短縮してきた様々な行事を、以前のように戻すことを考えた場合、自粛期間が長すぎたためスムーズに対応できるかが課題である。この機会を生かし、内容の精選を行い、行事を通して生徒の育成を図る。
 ・小さな学校ならではの長所である「個に対応した学習指導」にさらに磨きをかけ、一人一台端末の利活用をはじめ、効率的に理解を深めることができる学力向上を目指していく。
 ・小中一貫教育校として、小学校との連絡・研修を密にし、9年間を見通した学習面および生活面の連携方法を表に示し、徹底を図っていく。

2 学校教育目標
 ふるさとを愛し、自信と誇りをもち、未来を拓く子どもの育成

3 本年度の重点目標
 ① 9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の取り組み
 ② 学力の向上と自己教育力の育成
 ③ 一人一人を大切に教育の推進
 ④ 豊かな心・健やかな体を育む教育の推進
 ⑤ 国際化・情報化に対応した教育の推進
 ⑥ 教師の資質向上と働き方改革

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
											重点取組
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・学期ごとにマイプランの見直しを行い、各教科担当の成果指標を達成する。 ・「三瀬校スタイル」を基本とした学習指導の実践において、今後を生かす振り返りの充実を図る。							学力向上コーディネーター 研究主任	
	○家庭学習の定着と充実 ○「考え・伝え合い・ふりかえる」学びの場の充実	●県学力調査、おおむね達成基準到達70%以上 ・「授業で考え、伝え合う言語活動を行うことができた」と答える生徒80%以上 ・「単元を通したワークシートから、自分の成長を実感した」と答える生徒80%以上	・授業と場の工夫をし、思考を働かせる活動や対話的な活動を確保する。 ・単元計画、評価基準、ふりかえりを一目で見分ける「単元を通したワークシート」を全教科で作成し、教師と生徒が具体的な評価基準を共有する。							学力向上コーディネーター 研究主任	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	●生徒に定めた指導内容を工夫し、「道徳や学級活動は充実している」の設問に肯定的に答える生徒80%以上 ・「人権集会での話は自らの意識を高めた」と答える生徒80%以上	・教師が高い人権意識をもち、学校生活全体を通し、道徳や学級活動の教科指導にあたる。 ・社会科担当と学級担任の連携を図り、差別について正しく理解させることを通し、生徒の人権意識を高める。 ・毎月1回人権集会を開き、教師による講話を実施する。							道徳教育推進教師 人権・同和教育担当	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	・「生徒一人一人が持つ問題や悩みを気軽に相談できる」と答える生徒80%以上 ・教育相談アンケートを実施し、「学校は楽しい」と答える生徒80%以上	・いじめ未然防止のため、生徒一人一人が認められ、お互いを大切に、学級の一員として自覚できる学級づくりを行うとともに規範意識の醸成に努める。 ・定期教育相談を年2回実施する。気になる生徒については全職員で共有し、必要に応じてSC等に繋げる。 ・毎月生活アンケートを実施し、生徒が抱える問題や悩みを早期に発見・対応する。 ・SSWやSC等と連携し、必要に応じてケース会議を行う。							生徒指導主事 教育相談担当	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・体験活動では、生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。また、生徒の出番・役割を保障し承認するとともに、自己有用感を高める。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の三機能を生かした取り組みを実践する。								教務主任 各教科担当
	○特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実の必要性について肯定的な回答をした教員の割合を90%以上にする。	・特別支援教育校内研修会を年間6回開催し、教員のスキルアップを図る。								特別支援教育コーディネーター
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上 ●「健康に良い食事をしている」と答える生徒80%以上	・保健体育の授業において、健康の保持増進のためには適切な運動、食事、睡眠、休養が必要であることを理解させる。 ・食に関する意識調査を実施し、栄養教諭と連携して、望ましい食生活についての知識と実践力を育む。 ・給食たよりや保健たよりを通して啓発を行う。 ・運動部活動への加入や社会体育での活動を推進する。							保健体育主任 保健主事	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する教職員90%以上	・ノー残業デー、定時退勤日を設定(毎週水曜日)し遂行する。 ・業務データの一元化による校務の効率化。 ・個人の業務内容の見直しと自己マネジメント力の向上。 ・学校健康管理委員会を年3回開催し、勤務時間や年休消化状況を把握し、自己管理の健康管理に努める。							教頭	

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○志を高める教育	○ふるさと三瀬への郷土愛の育成 ○環境教育への関心の向上	・「三瀬を誇りに思う」と答える生徒80%以上 ・「SDG'Sや環境ISOに取り組めた」と答える生徒90%以上	・三瀬の自然や生活、社会とかわる体験活動について、計画・体験・まとめ・振り返りの活動を行い、生徒の主体性を育てる。 ・生徒会を中心に学期ごとに環境教育について再確認させ、年度末に環境ISOの実践報告を行わせる。							総合的な学習の時間担当 キャリア教育担当
○小中一貫教育	○小中合同行事の充実	・小中合同の行事、体験活動が「自分のためになっている」という生徒90%以上	・行事や体験活動において、生徒が主体的に企画・運営を行う機会を設定する。							教務主任

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望